



[ きたがわ 剛司 ]

# 北川たかし 府政活動レポート

第21号 2025.09

## 「内水氾濫」身近に起きる浸水被害を防ぐには？



近年、身近に起きる水害、それが「内水氾濫」です。大雨の際、雨水の排水が追いつかず、水があふれる現象です。大きな川のそばじゃないから大丈夫、ではありません。内水氾濫は用水路が機能不全になったり、排水ポンプが停止したりして、雨水の排水が追いつかなくなれば、都市部だけでなく、どこで

も起こり得る災害です。こういった小さな水路や河川は、すぐに水位が上がってしまうため、むしろ大河川よりも時間が短いので、すぐに対応する必要があります。いつ自分が被害に遭うか分かりませんし、外出先で大雨に遭う可能性もありますから、アンテナを張って行動するようにしましょう。

## 災害時の心得

### 01 正確な情報収集と早めの行動を

- テレビ・インターネットなどで最近の気象情報や災害情報の確認をしましょう。
- 気象庁の「キキクル=危険度分布情報」が、様々な情報がまとめられていて便利です。何も無い時に、一度見ておいてください。



キキクル=危険度分布情報 ▶

### 02 避難するとき

- 動きやすい服装で、丈夫なクツを履き、徒歩で避難しましょう。長ぐつやサンダルは危険です。
- 少しでも流れがある箇所は危険です。
- 普段、車でしか通らない道も、歩いてみると坂道だったり、フタのない溝があったりなど、思わぬ危険が潜んでいます。避難場所まで歩いてみるなど、家族で確認しましょう。



### 03 単独での行動は避けましょう

- 家族や近所の方たちと一緒に行動しましょう。
- お年寄りや体の不自由な方などの避難は、みんなで協力しましょう。



### 04 車での避難はやめましょう

- 一般の車は約30cm浸水してしまうと動けなくなる危険があります。アンダーパスには絶対に入らない。
- 窓ガラスを割れる工具を備えておきましょう。



### 05 浸水への備え、自衛策

「まず一番重要なのは、住んでいる地域の浸水の危険性をインターネットやハザードマップで知っておくこと。過去の浸水被害などを把握しておくことも大切です。」

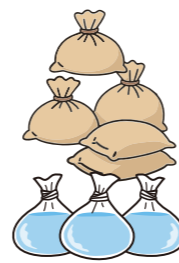
#### 《自宅周辺の点検・整備》

- 家の前の雨水(うすい)ますの掃除です。排水口にゴミや落ち葉がたまると、下水道へ排水されにくくなるので、気がいたら掃除しておきましょう。建物の屋上にある排水口も同様に点検しましょう。



#### 《家庭でできる浸水対策》

- 土のうを設置する。(土のうはホームセンターなどで入手できます。)
- 浸水が浅い場合は、家庭にあるものを使って、水の侵入を軽減させることができます。



北川たかし事務所に、お気軽にお立ち寄りください

皆さまのご意見・ご要望など聞かせてください。

北川たかし事務所 Takashi Kitagawa office

〒610-0313 京都府京田辺市三山木中央5丁目1-10 マンション竹長1F  
TEL.0774-62-7889 FAX.0774-66-4601

office@kitagawatakashi.net

http://www.kitagawatakashi.net



## Greeting ごあいさつ

皆さまから多大なるご支援をいただき、府議会議員として11年目を迎えることができました。

今年は梅雨が短く、昨年以上の酷暑だったように思います。京都は35度以上の猛暑日が全国でも圧倒的に多く、インドネシアやフィリピンなどの熱帯地方の雨季の気候に近いようです。古くから京都の暑さは有名ですが、暑さの質が変わってきているように感じます。米や露地栽培の野菜など、農業への影響は大きく、夏野菜の高騰は家計の負担が増えました。お米の価格も心配です。

雨の降り方も変わってきており、線状降水帯が発生して、一気に雨量が増えて危険な状況も発生しやすくなっています。裏面に、洪水に関する記事を掲載しています。大きな川が氾濫するよりも、小さな川が排水が追いつかず起こる内水氾

濫が、浸水被害の6割を占めるそうです。これから台風が多い時期になり、今一度、ハザードマップの確認と、自宅の防災減災対策、避難所情報の取得、備蓄品のチェックなどをお願いします。

今回の活動レポートは視察報告がメインとなっています。今年度は、総務・警察常任委員会、子育て環境の充実に関する特別委員会、議会運営委員会に所属しており、会派では代表幹事を務めています。常任委員会、特別委員会、会派で年に数回、京都府内や全国の先進的な取り組みをしている自治体へ視察を行ない、京都府内の今ある課題をどう解決していくか、また、将来的に取り組もうとしている計画をよりよいものにしていくか、に活かしていきます。

様々な課題に対して、より具体的に取り組みが進むように、皆さんの意見も伺いながら、府に対して提案できるように引き続き全力を尽くしてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



京田辺市、井手町、宇治田原町を  
笑顔でイキイキと暮らせる地域にするために  
「革新」と「挑戦」で取り組みます。

京都府議会議員 北川 剛司

Takashi Kitagawa inspection report

# 北川たかし 視察報告

## 新しい防災の取り組み 徳島県 鳴門市

鳴門市は南海トラフ巨大地震という大きな災害に備えるため、他にはない防災の取り組みを進めています。鳴門市が取り入れているのは、「フェーズフリー」という考え方です。これは、「日常」と「もしも」を分けないというもので、普段から使っている場所やサービスを、災害が起きたときにもそのまま役立てようという工夫です。

### 具体的には

- ▶ 新しく建てた市役所は、普段は職員が働く場所だが、災害時には避難所や災害対策本部、物資の備蓄拠点になる。
- ▶ 「道の駅くるくるなると」は、観光客でにぎわう場所でありながら、津波から逃れるための避難施設や、物資を集める拠点としての役割も持つ。



2Fの屋上広場へは大きなスロープで上げられるため避難時に役立ちます

このように、一つの施設が二つの役割を持つことで、効率よく災害への備えを進めています。これらの防災施設を作る費用には、国からの補助金(緊急防災・減災事業債)をうまく活用し、限られた予算で効率的に整備しています。

また、市民の防災意識を高めるために、「フェーズフリーフェスティバル」といった市民参加型のイベントを開催し、防災を「特別なこと」ではなく、「日常の延長」として楽しく学べる環境づくりにも力を入れています。



### 視察を終えて

京都府が災害対策として「フェーズフリー」の考え方を取り入れることで、以下のような効果が期待できます。

- ① 平時と災害時の両立: 普段から使っている施設やサービスが、災害時にもそのまま役立つため、特別な準備なしに災害に対応できる都市づくりが可能になると思います。
- ② 財源の有効活用: 福祉や教育など他の分野と防災を両立させることができ、限られた予算を効率的に使うことができます。
- ③ 観光客の安全確保と経済の両立: 観光拠点と防災拠点を一体化させることで、多くの観光客が訪れる京都でも、観光客の安全を守りながら地域経済を維持できる。

特に、道の駅をフェーズフリー化することは、比較的早く実現できる有効な策だとされています。道の駅は、多くの観光客や住民が利用するため、災害時の避難場所や物資拠点として活用することで、大きな効果が期待できます。

この考え方を府全体に広めるには、京都府が率先して動き、各市町村に鳴門市の事例などを参考にしながら、フェーズフリーの理念を浸透させていくことが重要です。この視察の成果を、議会や委員会を通じて府に提言していきます。

という課題もありました。これらの課題を受け、市では市民会議等を通じて、庁舎の耐震改修または建て替えの検討を実施。その結果、費用対効果や災害対応能力の観点から、庁舎の建て替えと高台への移転が決定され、平成31年度に新庁舎建設に着工し、新庁舎は、「コミュニケーション日本一、緑の丘の庁舎」をコンセプトに、令和4年1月に開庁しました。



## 将来的な庁舎整備に備えて 愛知県 常滑市

愛知県常滑市の旧庁舎は昭和44年に建築され、以降大規模な改修が行われておらず、老朽化が進行。特に耐震性に問題があり、地震時の倒壊リスクが高いことが指摘されました。また、立地も津波浸水区域にあり、液状化の危険性ははらんでいました。さらに、ユニバーサルデザインやプライバシーへの配慮が不十分である



## 学びの環境充実に向けて 愛媛県 松山市

愛媛県松山市にあるフリースクール「エルート」は、学校に馴染めない子どもたちが安心して過ごせる居場所です。「子どもたちの学びと成長の根っこを大切に育てたい」という願いから、「よく遊び、よく学び、よく巣立つ」というシンプルな合言葉を理念として掲げています。



### エルートが大切にしている3つのこと

- 安心と安全** 子どもたちが「ありのままの自分」でいられる、やさしい居場所づくり。
- 自由な選択** その日の活動を子ども自身が選ぶことで、主体性を育む。
- 存在の受け入れ** 「何もしない日があってもいい」という考え方で、どんな自分も肯定される安心感を提供。

これらの理念は、農業体験、理科実験、ミニビジネス体験など、多岐にわたるプログラムの中で実践されています。単なる学習支援にとどまらず、遊びと学びを統合した多様な活動が特徴です。



### 新庁舎の特徴

住民サービスを集約し、利便性を向上したワンフロア型の市民窓口

職員間の連携やコミュニケーションを促進する大部屋形式の事務室

自然通風・採光、節水・節電設備を活用した省エネ設計

4階建の低層設計と緑豊かな景観を採用

ライフラインが断たれても、業務や災害支援活動が継続可能な災害対応力

### 視察を終えて

不登校児童生徒が増える現代において、エルートのような実践例を参考に「安心」「自由」「存在の尊重」を柱とした新しい教育モデルを京都府で構築することが急務で、これは学校教育だけでなく、子育てや地域づくり全体に関わる重要なことだと思います。

- ① 「安心と安全」な教育環境づくり  
学校以外の居場所を制度的に認め、フリースクールやオルタナティブ教育機関との連携を強化する。京都の地域資源(寺院、町家、自然)を活用した居場所づくりモデルを推進することも有効だと思います。
- ② 「自由な選択」を可能にする学びの制度改革  
国の制度とも連携し、フリースクールやオンライン学習を正規の教育として位置づける「出席扱い制度」をさらに柔軟にし、子どもが自分で学びを選べるよう、学習バウチャー(学びのチケット)導入の検討が必要だと考えます。
- ③ 「存在を受け入れる社会」づくり  
学校に行くかどうかにかかわらず、全ての子どもが地域の一員として尊重されるよう、地域・学校・行政が連携するプログラムを設計する。「何もしない日があってもいい」という考え方を社会全体に広める啓発活動も重要です。
- ④ 「遊びと学びの統合」による未来人材の育成  
京都の伝統工芸や文化、観光事業と結びつけた学習機会を提供する。「よく遊び、よく学び、よく巣立つ」という循環を府内の教育現場に導入することで、未来を担う人材育成につなげます。



### 視察を終えて

常滑市の事例は、「行政機能の効率化」「災害対応力の強化」「住民目線の利便性」「環境・景観への配慮」という4つの観点で優れたモデルといえます。京都府が今後、庁舎整備を行う際は、単なる施設更新にとどまらず、府民サービスの質の向上と将来を見据えた公共施設整備として位置づけるべきだと思います。私たち議員も今後、庁舎整備を行う際には、常滑市の事例を参考に提言したいと思います。